



Bureau of International Health Cooperation, National Center for Global Health and Medicine, Japan

WCC機関名：国立国際医療研究センター国際医療協力局（JPN-45）

TOR: Health Systems Development

TOR 1. WPRO内対象国において、多職種にわたる保健人材に関する法的枠組みの開発を支援する。

TOR 2. コンピテンシーに基づいた卒前研修および継続教育を通じて、質の高い保健人材を確保するための実現可能なメカニズムについて調査研究を実施する。

**事業名：アジア西太平洋地域の低中所得国における医療従事者育成システムの強化に関する研究
～法的枠組み、経年別実践能力の評価、継続教育と地方定着について～**

1) 背景と目的：

- SDGs 3では「人々が質の高い基礎的医療サービスを受けられること」や「低中所得国での医療従事者の能力開発・訓練及び定着の大幅な改善」を挙げ、質の高い医療従事者とそれを支えるシステムが不可欠である。
- これまで医療従事者の能力開発に関する技術支援は行われてきたが、その効果を実証した研究は少ない。
- 本研究では、低中所得国（ラオス、モンゴルを対象）の医療従事者育成において以下を目的とする。

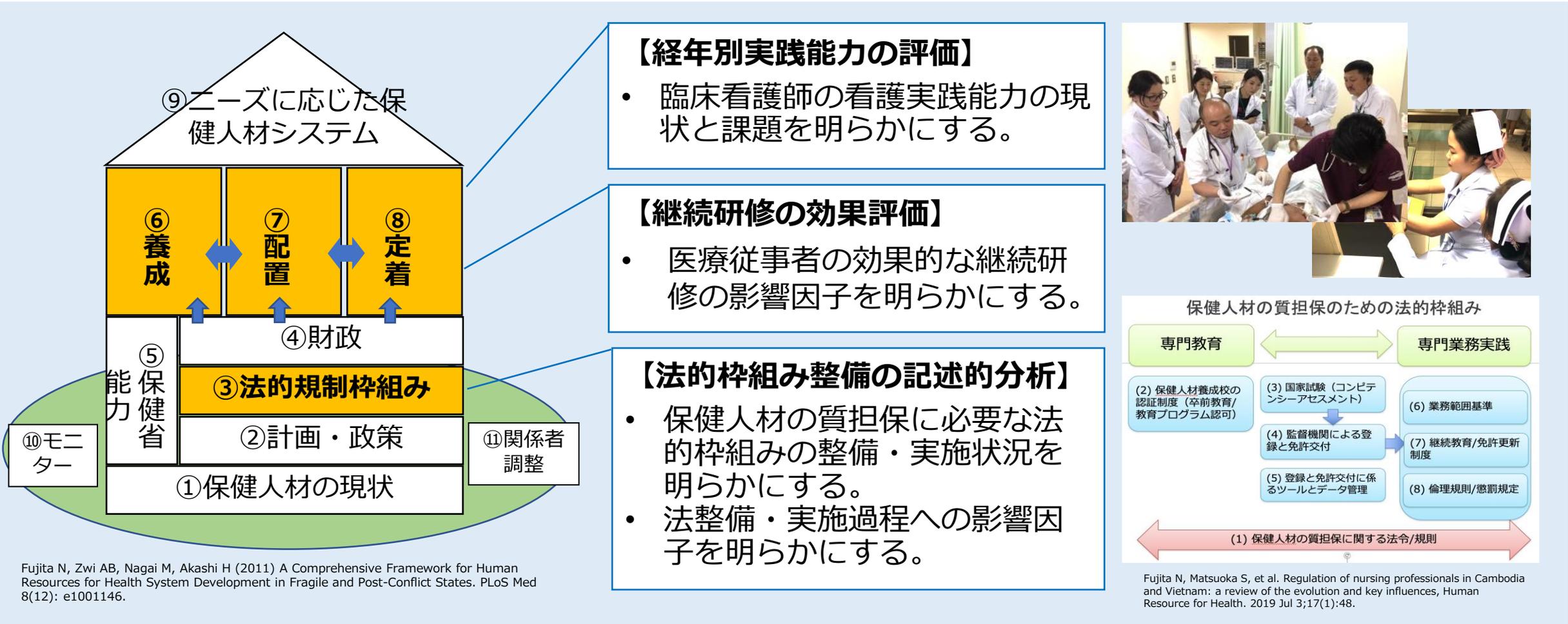
① 質を担保するための**法的枠組み整備に必要な要因の明確化**

② 養成校卒業直後の初心者から質の担保されたジェネラリスト・スペシャリストに到達する**経年別実践能力の評価**

③ 卒後数年以降での**継続研修の効果**と**地方への定着に影響を与える要素の明確化**

2) 事業概要 :

- NCGMが開発した保健人材開発分析フレームワーク「House Model」において、「**法的規制枠組み、養成、配置、定着**」に焦点を当て、ラオス・モンゴルで3つの研究を行なっている。
- ポストCOVID-19パンデミック時代を見据えた、保健人材の育成や働き方の提言につなげる。



3) 今後の予定 :

- ラオス・モンゴルで研究を継続し、成果は各国政府およびWPROへ報告すると共に論文として発表する。